

地域包括ケア促進のための組織再編成 ～包括的支援体制づくりにおいて 保健師に求められること～



糸魚川市ゆるキャラ:ジオまる&ぬーな

糸魚川市市民部福祉事務所
地域包括ケア係 山岸千奈美



健康いといがわ21
推進キャラクターわかめちゃん

糸魚川市はどんなところ？

新潟県は、

東北地方か？

北陸地方か？ 問題

ACCESS

糸魚川への交通のご案内



航空路線

- 新潟空港
 - [国内線]
札幌・成田・名古屋(中部国際)
名古屋(小牧)・大阪・福岡・沖縄
 - [国際線]
ソウル(仁川)・ハルビン
上海(浦東)



航空路線

- とやまきときと空港
 - [国内線]
東京(羽田)・札幌
 - [国際線]
ソウル・大連

**注：糸魚川市は
富山県ではありません！**



糸魚川市の概況



画像提供：一般社団法人
糸魚川市観光協会

保健師の配置状況

(令和5年度8月末現在)



保健師数 18人
 正規職員 14人
 会計年度任用職員 4人

教育委員会

【福祉事務所】

地域包括ケア係4人
 (うち会計年度任用職員1人：週1勤務)

市民部

【健康増進課】

保健係 5人
 (うち産休代替1人)
 ワクチン接種
 推進室 (兼務) 2人

【こども課】

親子健康係7人
 (うち会計年度任用職員2人)

【委託】地域包括支援

センター (5か所)
 保健師3人



◆職位 課長補佐級1人 係長級3人 主査4人 主任
 2人 保健師4人

組織編成の経過 1

- 平成29年度：地域包括ケアシステムを総合的に推進するための拠点の視察

（富山県氷見市「社協委託 地域セーフティネット活性化事業」・南砺市「地域包括ケアセンター」）社会福祉協議会・地域包括支援センター・障害者相談支援事業所合同

⇒ 第7期介護保険事業計画（平成30年度～令和2年度）に「基幹包括支援センター」設置を明記

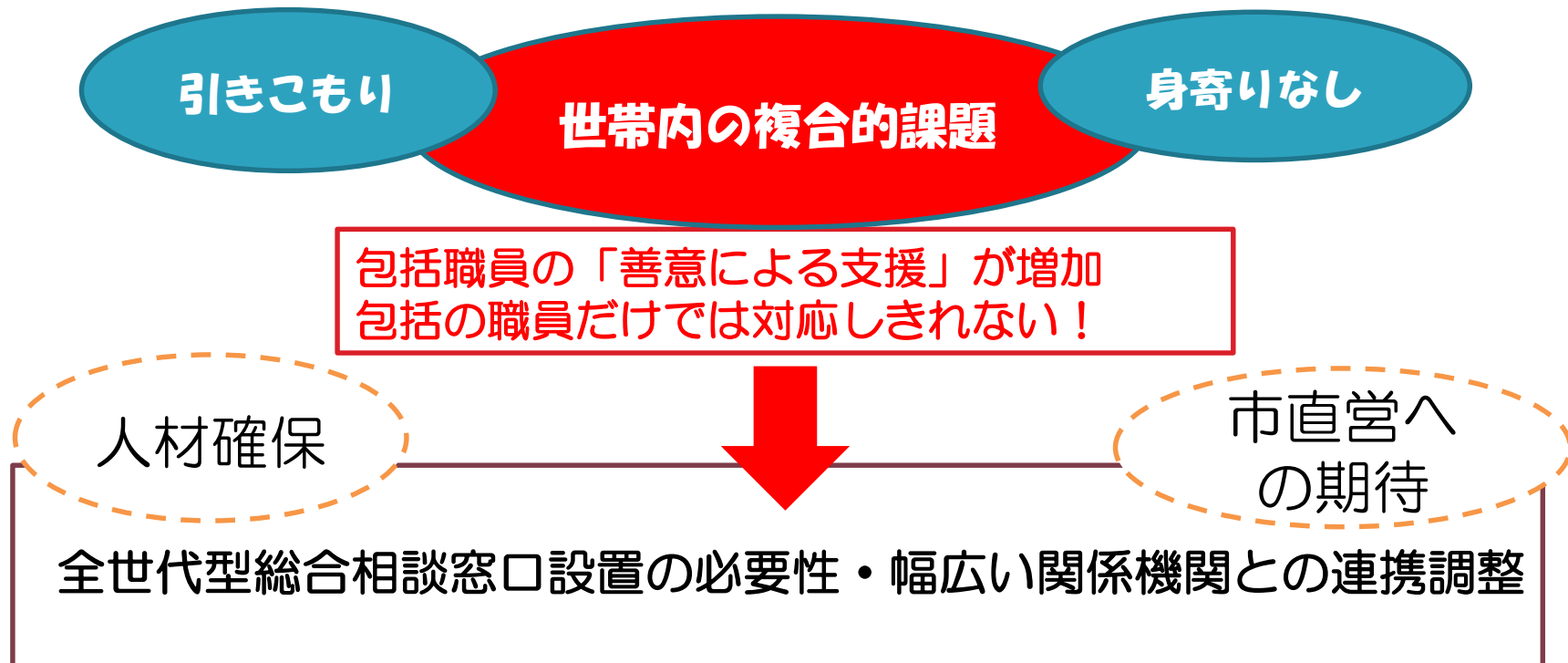
- 平成30年度：病院を拠点とした地域包括ケアシステムの視察（広島県尾道市みつぎ病院）
市議会 市民厚生常任委員会の市外調査に同行

組織編成の経過 2

- 令和元年度：具体的協議開始
- 令和2年度：協議中断。市長への組織再編成の提案延期（新型コロナウイルス対応のため）
- 令和3年度：協議再開。福祉事務所内に基幹型地域包括支援センター機能を持つ「地域包括ケア係」新設を市長へ提案
- 令和4年度：福祉事務所内に「地域包括ケア係」と「福祉サービス係」を新設

協議方法・内容

- (1) 委託の地域包括支援センター(5か所)との協議
包括会議(月1回の定例会)の議題とし、課題の検討。
課題に対応するため、基幹型包括支援センターに求める機能について協議

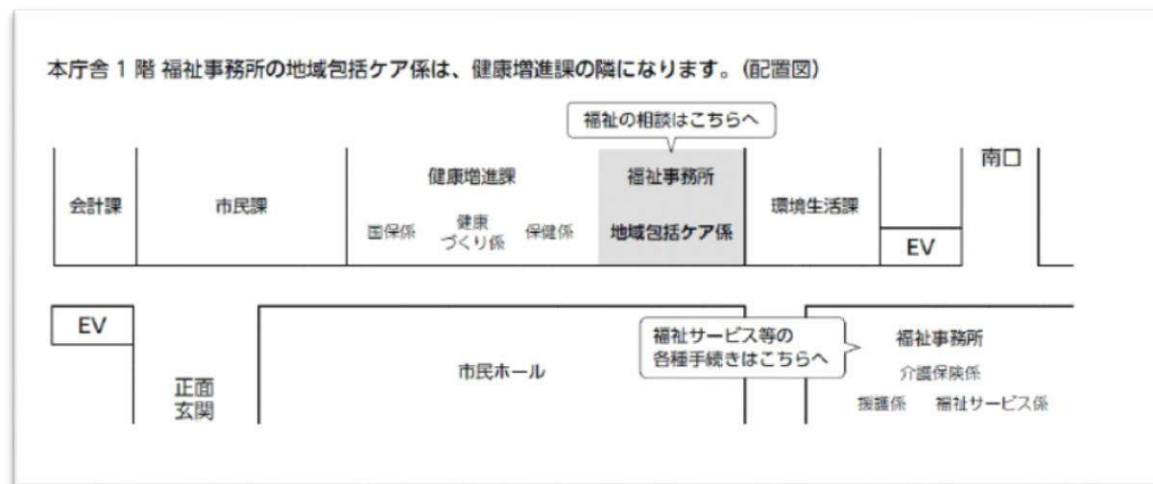


(2)庁内協議

- ①**福祉事務所**：健康増進課と共通する業務があり、市直営の基幹包括支援センター立ち上げのためには、組織の再編成が必要。
- ②**健康増進課**：「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」にあたり、福祉事務所との連携強化と地区担当制強化のために保健師の配置を一極化できないか？
- ③**庁内保健師連絡会(年3回)**：18歳以下を対象とした相談業務は教育委員会部門にそのまま置くほうが良い。
*ただし、障害児の福祉サービスと相談は福祉事務所が所管。
- ④**市民部(部課長会議に提案)**：市民部企画主幹(事務職員課長補佐職)を中心に、コアメンバー会議(7月までの月1回)の実施により、現状の課題、新たな組織と業務内容、職員体制等について協議。

地域包括ケア係の新設

- ・基幹型地域包括支援センター設置による包括業務の機能強化。
- ・重層的整備支援事業の実施体制づくり(総合相談体制の構築)として、障害者の相談支援を引継ぐ。
- ・福祉事務所と健康増進課との「フレイル予防対策」の業務分担の明確化。
- ・保健師を集中させ連携を円滑にするため、庁内配置を移動



令和4年度～ の活動

(1)福祉の総合相談に関すること



研修会にて
地域包括支援センター職員とグループワーク

(2)地域支援事業に関すること



フレイル予防教室



(3)障害福祉に関すること

R4.7.14. こども部会・若性部会合同勉強会 グループワークまとめ

テーマ:医療的ケアが必要な児の卒業後の居場所について

目標:誰かに託して、笑って死ねる地域

課題:介護、医療に携わる人材が少ない→看護大学の実習を活用

福祉事業者が少ない→医療的ケアが増えてくるが、対応できる施設がない→医療とのタイアップ必須

- 財源にも限りがある→既存施設(ホテル等)の有効活用
- 訪デイ、生活介護、ショートステイ全てを集約した施設
- 親子で利用できる施設

入浴に対する保護者の要望(負担大、障害者専用の入浴施設等)に応えられない

- 利用者の生の声を拾い上げ、メリットを発信
- 自宅ヘルパーと事業所入浴の併用

人	不安 未知の世界	18-65才が大半 19-20代は家に死んだ 医療のタイアップ 看護大の実習を活用
	市川のお話 未来の世界	
もの (場所) 金	入浴の負担 施設が少ない	事業所、使え生のお着い行政発信 ・サケ川をもっと大きく法律制限(入浴令) ・自宅ヘルパー 事業所入浴併用 ・親子で入れ各施設 ・今の施設の利用 → 存続への活用 ・お金の大切 ・お金の活用 → 存続への活用
	金がない	お金の大切 お金の活用 → 存続への活用

自立支援協議会こども部会
保護者を交えてグループワーク

おわりに

包括的支援体制づくりのために…

連携に次
ぐ連携

自助・互
助の支え

「規範的
統合」

ケースの
積み重ね

時代の要請

おわりに

【保健師の役割】

強みを見つ
みつける
みる

外への
発信・
巻き込
む

計画に
位置
付ける
うご
かす

ご清聴ありがとうございました。

